

(様式1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（2年次）

1 学校名等

学 校 名	宇治市立宇治小学校							校長名	市橋 公也	
所 在 地	〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割27番地 電話 0774-39-9143 FAX 0774-39-9146									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	4	4	4	4	4	4	3	27	43 ※校長・教頭を含む	
児 童 数	117	113	117	127	126	133	13	746		
連 携 先 (文化財所有者等)	黄檗山 萬福寺									

2 研究校の概要

本校は、平成24年度に開校した施設一体型小中一貫校で、今年度の児童生徒数は宇治小学校746名、黄檗中学校353名、合計1099名である。

令和3年度からは、地域の文化財所有者である「黄檗山萬福寺」と連携し「絆の作り手育成プログラム」に取り組んでいる。

令和2年度、令和3年度と黄檗中学校で「未来の担い手育成プログラム」に取り組み、両校種とも京都府教育委員会研究校に位置付くことで、義務教育9年間を通じた課題解決型の学習を手段とした認知能力と非認知能力の一体的な育成を系統的に推進することに着手することができた。

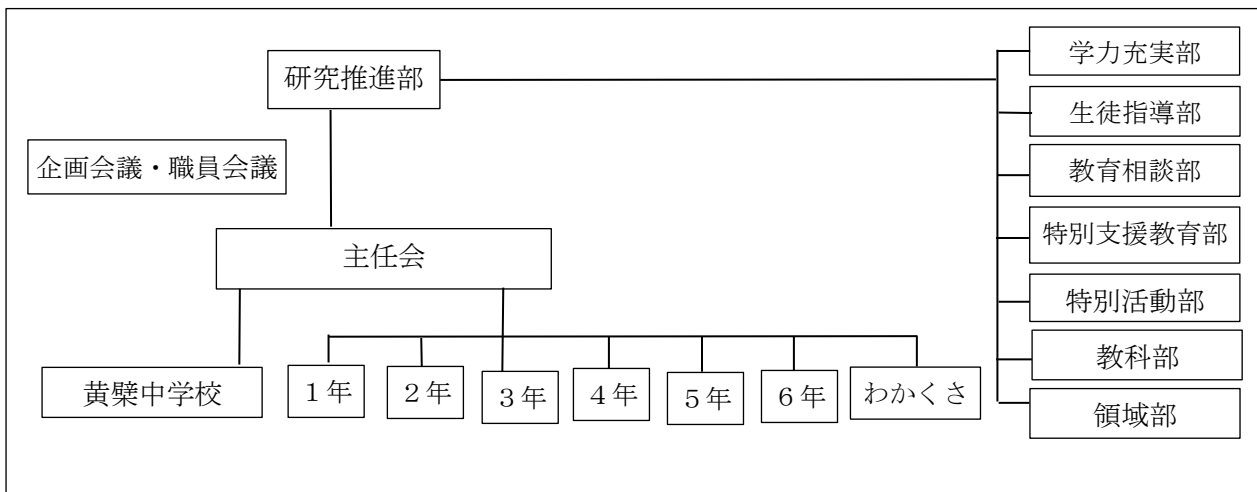
【認知能力の実態】

全国学力・学習状況調査や京都府学力診断テストの結果は、どの教科も全国・府平均と同程度か、若干下回り定着に課題が見られる。特に、国語科における「読むこと」に課題が見られ、資料を読むことを通して学んだ読み方を生かし、複数の文章を基に必要な情報を集め、報告する相手を意識してまとめることができるようにする指導の弱さが浮き彫りになった。

【非認知能力の実態】

異学年の交流が自然な形で行われ、小・中学校での9年間を同一集団で過ごすことで、安心感と他者理解が進み、素直さや優しさを持ち、男女の仲もよく、誰とでも抵抗なくコミュニケーションを図ったり自分の考えを表現したりすることができる。一方、全国学力・学習状況調査や京都府学力診断テストの質問紙調査の結果から、特に自己肯定感に関する設問について否定的に答えた児童の割合が高い傾向が見られ、非認知能力の中でも人と関わる力よりも自分に関する力の育成が急務である。

【研究体制】



3 主な研究活動

(1) 研究テーマ

「文化財所有者の課題を解決し、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育の展開」
～身に付けさせたい力を明確にし、系統的な郷土学習と PBL に繋がる授業改善を通して～

(2) 主な研修会等

- | | |
|-----------|---|
| 4月 | フィールドワーク（萬福寺） |
| 4月14日（木） | 校内研修会① |
| 5月19日（木） | 京都府教育委員会、山城教育局、宇治市教委育委員会との打ち合わせ |
| 7月27日（水） | 宮津市立府中小学校視察 |
| 9月6日（火） | 絆の作り手育成プログラム研究校に係る実践交流会（オンライン） |
| 10月～11月 | 萬福寺での活動 |
| 11月1日（火） | 京都府教育委員会、山城教育局、宇治市教委育委員会との打合せ
(授業参観含む) |
| 11月24日（木） | 「絆の作り手育成プログラム研究校」2年次研究協議会 |
| 11月30日（水） | 宮津市立府中小学校 公開授業研究会参加 |
| 1月25日（水） | 校内研修会② |
| 2月9日（木） | 絆の作り手育成プログラム研究発表会視察 |
| 2月22日（水） | 校内研修会③ |
| 3月13日（月） | 京都府教育委員会、山城教育局、宇治市教委育委員会との打合せ
(授業参観含む) |

◆ ツアーガイド体験



◆ スタンプラリー開催



◆ 座禅体験



◆ 普茶料理の試食会



(3) 系統的な「宇治学(総合的な学習の時間)」単元計画の作成

- 1年 「萬福寺界隈で『秋見つけ』をしよう」
【生活科】あきと なかよし
- 2年 「萬福寺をたんけんしよう」
【生活科】もっと 知りたい たんけんたい
- 3年 「隠元禅師とともに伝来した煎茶の文化を学ぼう」
【宇治学】「『宇治茶』のステキをつたえよう」
- 4年 「巨椋池のハス、萬福寺のハス」
【宇治学】「『ふるさと宇治』の自然を伝えよう」
- 5年 「隠元禅師とともに伝来した新食材、普茶料理、食事形態について学ぼう」
【宇治学】「『ふるさと宇治』をすべての人にやさしいまちに」
- 6年 「萬福寺学 ～文化財や地域の良さを再発見～」
【宇治学】「『ふるさと宇治』の魅力大発信」

4 今年度の研究の成果と検証

(1) 探究的な学びにするための学習過程の工夫について

- ア 低学年生活科を通して学校を取り巻く身近な環境からスタートした地域学習をもとに、中学年以降社会科との関連を図りながら郷土学習を切り口とした宇治学(総合的な学習の時間)を核にして、宇治ならではの特色を踏まえ第3学年で「宇治茶と茶文化」を、第4学年で「宇治の自然環境や生活環境」を、第5学年で「地域福祉・ノーマライゼーション社会」を、第6学年で「地域のよさや歴史・観光」を学習対象とし、さらに中学校での学習を見定めながら系統的・計画的に指導を進めることができた。
- イ 課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現の学習過程を繰り返すことで児童の目的意識、相手意識、内容意識、方法意識がより確かなものになっていった。また、学習の振り返りによって、新たな発見、疑問、さらに調べたいことの発見につながった。
- ウ 1年間学習に取り組んだ6年生児童のアンケート結果から、自分たちの取組を他学年に伝えたり、地域の方々へ広めたりすることで、少しずつ自信を付けていくことができ、児童の自己肯定感の向上につながったことがうかがえる。

(2) 協働的な学びをつくるためのグループ交流の工夫について

- ア 他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析しまとめたり表現したりする学習活動を行う際、比較する、分類する、関連付ける等の思考を深めるための技法を活用することができた。
- イ 課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のそれぞれの場面で活用できる思考ツールを、学習内容や児童実態に応じて様々に活用した。
- ウ ソーシャルスキル・トレーニングを活用する中で、表現力やコミュニケーション能力の向上につながることができた。

(3) 学習素材に関わる専門家の人々と関わる工夫について

- ア 児童がこれまでに積み重ねた学びをもとに、さらに関心をもって学習素材に関わっている人々との関わりを通して思いや願いに触れていき、専門家との協働的な探究活動が展開できた。
- イ 学校から徒歩で短時間移動できる文化財所有者を連携の対象にしたおかげで、専門家との度重なるやり取り、実際に足を運び納得や実感を伴った直接体験を繰り返しながら、児童が地域のよさに気づき、地域への誇りと愛着を感じ取ることができた。

(4) 考えたこと、伝えたいことの発信の工夫について

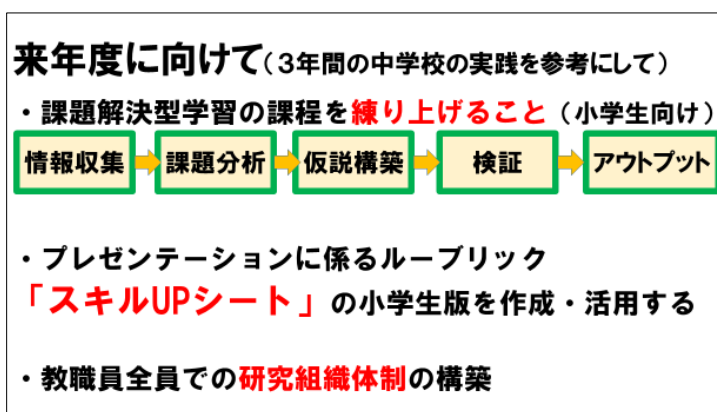
- ア 整理・分析の探究過程で分かったことなどを表現していく段階で、調べたことをもとに、思考ツールなどを使って、整理・分析することができた。(クラス・グループなど)
- イ 考えたことを様々な立場の人に見てもらおうことで、さらに改善していくことができた。

ウ ①学級内でのグループ発表、②学年での発表、③他学年への発表、④中学生への発表、⑤保護者や地域、文化財所有者、行政への発表とステップアップする計画を立てることができた。

5 今年度の課題

- (1) アンケートを学習の最初と最後に行ったが、児童の変化を数値化することができなかった。
- (2) 市の観光振興課など様々な立場の人に協力をしてもらえるようにする。
- (3) 「連携先である文化財所有者の抱える課題に対する解決策を考え実行し地域に貢献する」という本事業の趣旨からすると、課題をどのように選定するかが重要であり、連携文化財所有者と学校が十分に協議し課題を決定する必要がある。

さらには、そこから解決策を練る段階で児童が主体的に解決に向けて活動すること、最終的な発信に向けてリフレクションをしながら何度も練り直しブラッシュアップする PDCA サイクルの繰り返しが必要であり、1つの課題に対して年間を通して取り組む計画性が指導者側に求められる。



- (4) 令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果からみて、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のどの力も京都府の平均を下回っている。
また、質問紙の結果から「自分にはよいところがあると思いますか」という項目が、府平均を10%ほど下回っている。これらのことから、引き続きPBLに繋がる授業改善を通して認知能力と非認知能力の向上を目指す。

6 事業終了後の研究構想

- (1) 萬福寺の文化財・自然等を活用した学習を全学年系統的に展開する。
- (2) 各教科等での課題解決型の学習をさらに進める。
- (3) 郷土・人・ものとのつながりを大切にする児童を育成し、さらに小中一貫教育を通して自ら学び続け、社会と関わる人材の育成を目指して3年次の研究を進めていく。

総合的な学習の時間「単元計画」

1 単元名：第6学年「萬福寺学」（49時間扱い）

2 単元の概要

萬福寺の課題に寄り添い解決策を提案・実行する中で、文化財や地域の良さを再発見し、自らの関わりについて発信し地域貢献につなげる。

3 単元の目標

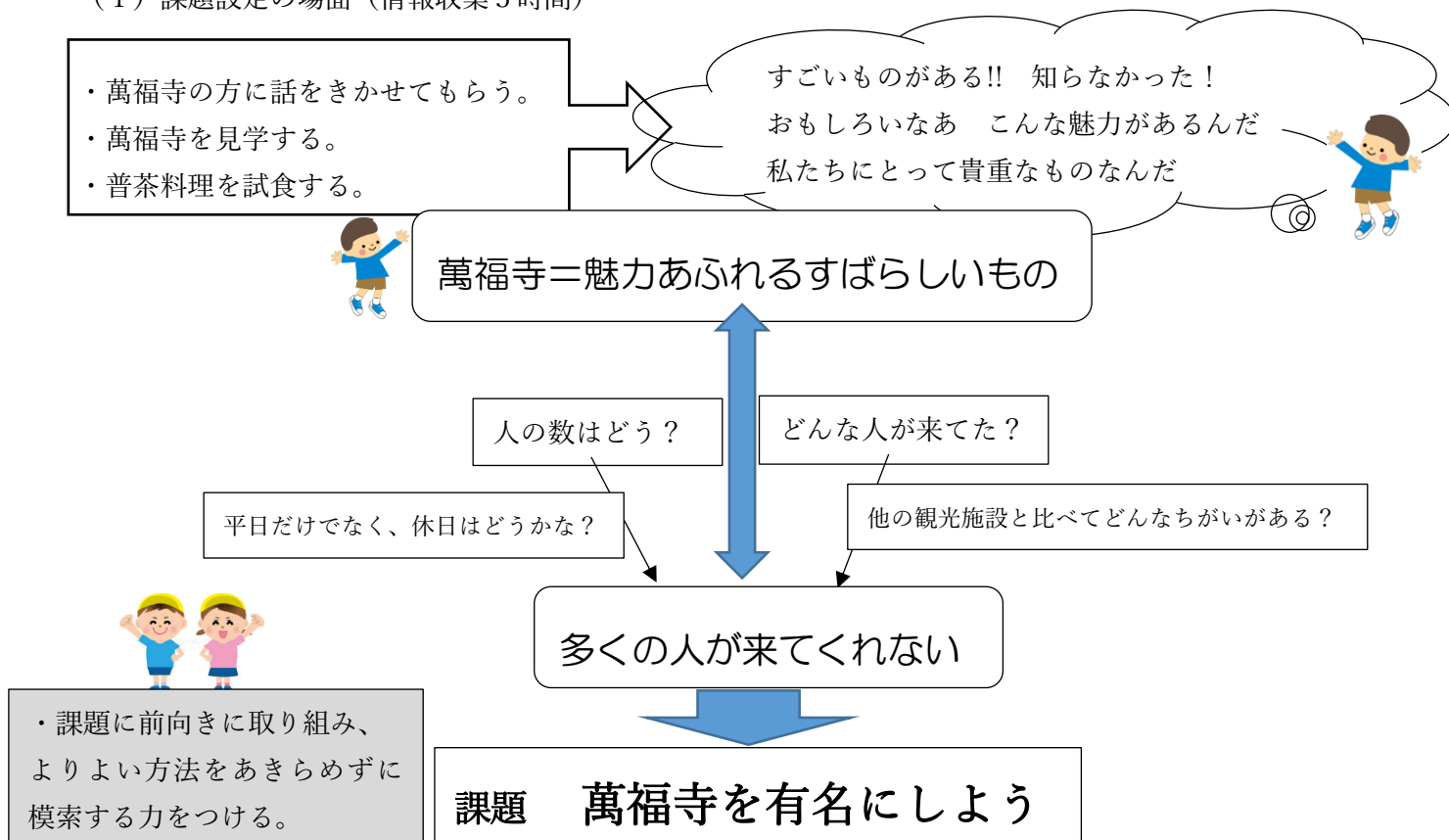
地元の文化財である「黄檗山 萬福寺」が抱える問題意識からくる課題の解決策を考えることを通して、文化財や地域の良さを再発見し、自らの関わりについて発信できる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域には貴重な文化財が存在していることや、文化財や地域の良さを理解している。 ② 活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かる。	① 文化財を生かした地域の活性化について、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	① 地域の文化財の魅力や課題について考える中で、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ② 課題解決に向けた自分の取組を振り返り、地元の文化財の活性化に向けて粘り強く取り組もうとしている。

5 単元の展開

(1) 課題設定の場面（情報収集5時間）



(2) 情報収集の場面 (6時間)

○実際にどれだけの人が宇治市・萬福寺に訪れているのか。

→ほかの観光地と比較するなどして、萬福寺に訪れている人が少ないのかを数値によって調べる。

→年代やどのような人が訪れているのかも調べる。

※調べ方

- ・宇治市観光課や萬福寺から資料をもらう。
- ・インタビューする。(目的や訪れた理由などを聞いてみる)

○たくさんの人に来ってもらうために、萬福寺が実際に取り組んでおられることを調べる。

※調べ方

- ・宇治市観光課や萬福寺から資料をもらう。
- ・実際に萬福寺に行って調べる。
- ・インタビューをする。

○萬福寺の魅力(他のところとはちがう)について詳しく調べる。

※調べ方

- ・宇治市観光課や萬福寺から資料をもらう。
- ・実際に萬福寺に行って調べる。
- ・インタビューをする。
- ・祭りやイベント、修行体験などに実際に参加する。

(3) 整理・分析の場面 (5時間)

- ・調べたことをもとに、思考ツールなどを使って、整理・分析する。(クラス・グループなど)
- ・考えたことを様々な立場の人に見てもらい、改善していく。

(4) 一回目のまとめ・表現の場面 (10時間)

各クラスで課題を解決するために決めた取り組みを実践する。

- ・課題解決に向けて、各クラスで実践できるように準備を行う。
- ・ツアーガイド、スタンプラリー、座禅体験、給食で普茶料理を出す

(5) 整理・分析・情報収集の場面 (6時間)

- ・実践したことをもとに、思考ツールなどを使って、課題が解決できたか整理・分析する。(クラス・グループなど)
 - ・考えたことを様々な立場の人に見てもらい、改善していく。
 - ・実際にどれだけの人が萬福寺に訪れているのか。
- 年代・地域別の観点で萬福寺に訪れている人の増減を数値によって調べる。

(6) 二回目のまとめ・表現の場面 (5時間)

各クラスで課題を解決するために決めた取り組みを実践する。

(7) 整理・分析・情報収集の場面（6時間）

- ・実践したことをもとに、思考ツールなどを使って、課題が解決できたか整理・分析する。
（クラス・グループなど）
- ・考えたことを様々な立場の人に見てもらい、改善していく。
- ・実際にどれだけの人が萬福寺に訪れているのか。
→年代・地域別の観点で萬福寺に訪れている人の増減を数値によって調べる。

(8) 二回目のまとめ・表現の場面（6時間）

各クラスで課題を解決するために決めた取り組みを実践する。

6 その他

- (1) アンケートを学習の最初と最後に行い、児童の変化を数値化できるようにする。
- (2) 学習の過程をこまめに掲示物にまとめ、学年のスペースに掲示できるようにする。
- (3) 宇治市の観光課など様々な立場の人に協力をしてもらえるようにする。